

## ボツリヌス毒素(商品名:ボトックス)治療について

中央病院で行っているボトックス治療について、ご紹介します。

### ボトックス治療とは？

ボツリヌス菌が作り出す毒素（ボツリヌストキシン）を注射して、緊張している筋肉を麻痺させ、筋肉の緊張によって起こる様々な症状を改善する治療方法です。ボツリヌス菌は食中毒の原因となることでも知られており、不安に感じられる方もいらっしゃることでしょう。しかし病院でのボトックス治療は決して危険な治療ではありません。その効果の高さを実感され、繰り返し治療を受けている患者さんも多くいらっしゃいます。



### どのような作用があるの？

私たちの筋肉は、神経からの指令を受けて収縮します。ボツリヌス毒素は、この指令が伝達される仕組みを妨害する働きがあるので、注射部位で「筋肉の緊張を弛(ゆる)める効果」が得られます。この作用をうまく利用し、緊張が強くなっている筋肉を麻痺させて、運動や日常生活の障害となっている症状を改善させるのです。

### 治療の対象になる病気は？

脳性麻痺や脳卒中をはじめ、脳や脊髄に損傷があると手足や首、背中などの様々な部位で、筋緊張の異常が生じます。なかでも本人の意思と関係なく筋肉の緊張が高まってしまふことを、痙性（けいせい）麻痺や痙縮といいます。痙縮（＝強い筋緊張）のある患者さんが、ボトックス治療の対象となります。



痙縮の治療は、まず、ストレッチ、リラクゼーションなどのリハビリテーションや、筋緊張を緩和する内服薬の使用です。それでも効果が不十分な場合や変形が強い場合に、従来は整形外科で筋肉延長などの手術が行われてきました。最近になり、新しい治療法としてのボトックス治療や、バクロフェン髄腔内投与療法（体内にポンプを埋め込み、脊髄に持続的に薬を注入して緊張を緩める治療）、脊髄後根切断術などが広まってきました。

### ボトックス治療の実際

日本では、**2001**年にボトックスが保険治療として承認されました。中央病院整形外科では、**2002**年からボトックス治療を取り入れ、これまでに**200**人以上の患者さんに治療を行ってきました。

頸から背中の緊張のために強く体を反らせてしまう方や、頸の運動や姿勢を自分でコントロールできない方などは、ボトックス治療による効果が期待できます。実際に注射を行った患者さんやそのご家族からは、「体や顔の向きを自分でコントロールできるようになった」「寝ている姿勢が良くなった」「反り返りがなくなり、呼吸も楽になった」「座る姿勢が安定し食事介助がしやすくなった」「抱きやすくなった」などの効果を報告していただいています。

また脳性麻痺などで尖足歩行（つま先歩き）のある患者さんでは、踵が地面に着きやすくなり、安定して立っていられるようになったり、歩き方が良くなったりすることが期待できます。この他、上肢（腕）や下肢（脚）の痙縮症状に対しても保険治療が認められていますので、今では体のほとんどの部分に注射できます。関節の動きが柔らかくなることでおむつ交換や更衣などの介護がしやすくなったり、緊張によって生じる筋肉の痛みが和らぐなどの効果も期待できます。このほかに、整形外科的な手術をする時期を少しでも遅らせるために、ボトックスの注射をすることもあります。

ボトックス治療では、緊張の強い筋肉に数カ所に分けて注射を行います。**10**か所以上になることもあり、注射の痛みを避けるため麻酔をかけて実施することもあります。一般的には注射後**3～4**ヶ月間、効果が持続します。その後は徐々に効果が消えてしまうため、効果を長期に得るためには、年に**2～3**回のペースで注射を継続する必要があります。治療を開始するまでの経過が長くて、筋肉がすでに短縮していたり、関節変形が強い場合には、効果が乏しくなります。また副作用として、筋肉の過度の脱力、呼吸や嚥下（飲み込み）困難などを生じることがあります。

内服薬やリハビリなどでも筋緊張のコントロールが難しくお困りで、ボトックス治療を希望される方は、まずは主治医やリハビリ訓練士にご相談ください。